

住民と学生との協働による

道づくり&橋守プロジェクト

日本大学工学部土木工学科

高度経済成長期に集中整備された社会インフラの一斉老朽化が社会問題となっています。

中でも、財政力、技術力の乏しい地方の市町村では、過疎化・高齢化とも相俟って、今後行政主導によるインフラの維持管理が立ち行かなくなる恐れがあります。本取り組みでは、「市民の望むインフラを市民と共に造り、守る」という土木工学(Civil Engineering)の原点とも言える「普請」の精神に立ち返り、そこに学生の教育の場も求め

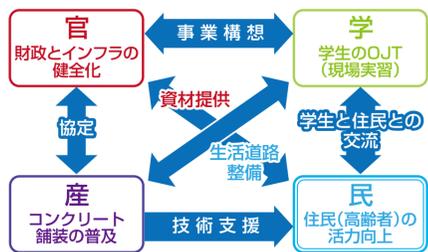
① 住民と学生との協働による道づくり ② 住民と学生との協働による橋守 ③ 橋の名付け親プロジェクトを展開しました。

① 住民と学生との協働による道づくり

産・官も支援するWIN-WIN-WIN-WINの活動

地域の生活道路を砂利道からコンクリート舗装に変えるため、平田村において、官学産民の連携による取り組みを開始。官は民に対し、生コンをはじめとする資材を提供し、民は労働力を提供。また、産は丈夫で長持ちする舗装を実現するため、技術支援を行いました。さらに学は教員が役場の職員と事業構想を練るとともに、1年生3名を含む学生約20名を現場に派遣し、地域住民と共に道づくりに携わりました。こうした取り組みを2012年6月から現在までに3回行い、地域の行事として定着しつつあります。

WIN-WIN-WIN-WINの4者関係



〈官学産民の協働による道づくりのスキーム〉



〈住民と学生との協働による道づくり〉

取り組みによる プラスα効果

- ① 学生は普通の座学や実験だけでは得ることのできない貴重な現場実習を体験し、住民との交流を通して地域の実状を学ぶこともできます。
- ② 高齢者の多い住民は孫ほど年齢の違う学生とのコミュニケーションを楽しむことができます。

② 住民と学生との協働による橋守

日常的に維持管理を行う『橋の歯磨き』プロジェクト

道づくりのスキームを、橋守へと展開。官が橋の簡易な維持管理に必要な資材を提供し、住民と学生が橋守の担い手となり、橋梁エンジニアがこの取り組みを技術支援するという仕組みです。この取り組みを「橋の歯磨き」と呼んでいます。橋の劣化を予防するためには、排水柵の清掃や土砂の撤去、欄干の塗装といった日常のこまめな維持管理が有効で、これを地域住民にお願いすれば、予算をかけずに橋の延命化を図ることができます。2013年4月にはこの取り組みを支援する『ふくしまインフラ長寿命化研究会(代表:岩城一郎)』が発足しました。現在、県内約70社の建設関連会社が入会し、道づくりや橋守に関する支援を行っています。2013年11月には南会津町において、住民と学生合わせて約50名が参加し、延長約150mの橋の欄干をペンキとはけで塗装しました。



〈ふくしまインフラ長寿命化研究会〉



〈住民と学生との協働による橋の欄干塗装〉

取り組みによる プラスα効果

- ① この取り組みは民放の報道特集番組内で紹介され、多くの反響を呼びました。
- ② 『ふくしまインフラ長寿命化研究会』では技術の底上げを図るため、3つの勉強会(コンクリート、鋼、施工)を開始しました。

③ 橋の名付け親プロジェクト

名付け親は子どもたちに～学生が発案したインフラへの関心を高める企画～

平田村では現在約60の橋を管理していますが、そのうちの約半数は名無し橋です。①の道づくりに参加した1年生3名は、「今後を担う子どもたちに地域にある名無し橋の“名付け親”になってもらい、地域のインフラに関心と愛着をもってもらう」と考えました。そうして名付けられた橋は、子どもたちはもちろん、親やその上の世代にも関心をもってもらうのではないかと、いう考えから、「橋の名付け親プロジェクト」として企画書を作成。平田村村長に企画書の内容を説明したところ、大いに評価いただき、早速2つの橋に名前を付けてもらいました。「あゆみ橋」と「きずな橋」です。2013年6月には平田村にて命名式が行われました。



〈名無し橋の命名式〉



〈社会人基礎力育成グランプリ決勝大会の様子〉

取り組みによる プラスα効果

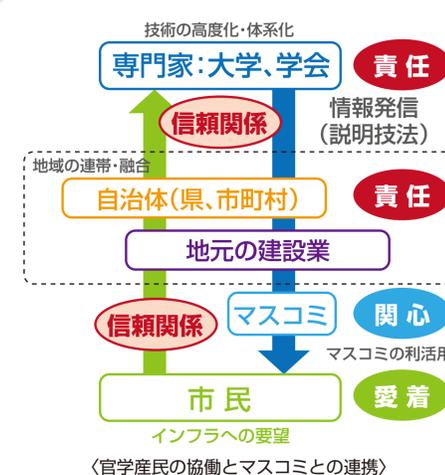
- ① この模様はNHKの解説番組で取り上げられ、大きな話題となりました。
- ② 道づくりに参加し、橋の名付け親プロジェクトを企画した学生は、その内容を2013年社会人基礎力育成グランプリ決勝大会で発表し、準大賞に輝きました。

今後の展望

市民普請による自立した地域づくりを目指す

- ① 官学産民の協働とマスコミとの連携を意識し、平田村や南会津町で進められているプロジェクトを他地域へ水平展開します。
- ② 県内外の工業高校に本手法を教えることにより、工業高校との連携を通して本プログラムの水平展開を目指します。
- ③ 地域の好例を共有し、水平展開するため、全国インフラ長寿命化ネットワーク構想を提案し、実現します。

地域には都会にはない強み、すなわち『地域力』があります。住民が地域のインフラに関心と愛着を持ち、官学産民で協働してこれを造り、守ることで、まだまだ地域が廃れることはありません。そればかりが市民普請により自立した地域づくりが実現すれば、健全で持続可能な新しい地域モデルを国内外に発信することができるでしょう。



〈官学産民の協働とマスコミとの連携〉



〈全国インフラ長寿命化ネットワーク構想〉